

## 助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2024年4月12日

事業ID:2022002208

事業名:船の科学館「海の学びミュージアム  
サポート」

団体名:公益財団法人 日本海事科学振興  
財団

代表者名:理事長 吉田 哲朗 印

TEL:03-5500-1110

事業完了日:2024年3月31日

### ■契約時

事業費総額	:	123,500,000 円
自己負担額	:	0 円
助成金額	:	123,500,000 円

■箇所は【フォーム】収支計算書より自動転記

### ■事業完了時

事業費総額	:	121,234,167 円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	167 円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	:	121,234,000 円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	:	2,266,000 円	(収支計算書の青のセルの値)

## 1.事業内容

### ■事業内容1

#### (1)助成契約書記載の事業内容(予定)

1.博物館が実施する各種活動への支援  
(1)海の企画展サポート(計17件)  
企画展等への支援  
(2)海の博物館活動サポート(計11件)  
Aコース:フィールドワークやアウトリーチ等の活動への支援(6件)  
Bコース:学校教育との連携に特化した活動への支援(5件)  
(3)海の学び調査・研究活動サポート(計5件)  
博物館活動を「海の学び」につなげるために必要な調査や、海洋教育の実践・発展に向けて必要な調査や研究への支援  
(4)海の学び特別サポート(計3件)  
年度毎に指定するテーマで実践される活動への支援  
※本年度テーマ:オンライン学習プログラムの開発

#### (2)事業完了時の事業内容(実績)

1.博物館が実施する各種活動への支援  
(1)海の企画展サポート(計15件)  
企画展等への支援  
(2)海の博物館活動サポート(計8件)  
Aコース:フィールドワークやアウトリーチ等の活動への支援(5件)  
Bコース:学校教育との連携に特化した活動への支援(3件)  
(3)海の学び調査・研究活動サポート(計4件)  
博物館活動を「海の学び」につなげるために必要な調査や、海洋教育の実践・発展に向けて必要な調査や研究への支援  
(4)海の学び特別サポート(計3件)  
年度毎に指定するテーマで実践される活動への支援  
※本年度テーマ:オンライン学習プログラムの開発

#### (3)成功したこととその要因

各種サポートプログラムを通じた各館での海の学びの実践サポートを行うことで、様々な地域・テーマを通じた社会教育分野からの海の学びの実践と推進を行うことができた。その一因として、実施館・担当者とのやり取りを通じて、各館ならではの海の学びへのアプローチ方法や海との関連性を認識して頂く機会となり、各館の特徴や地域性を生かした各館ならではの海の学びの実践事例作りや海洋教育への理解・当サポート事業への賛同を頂けたことが挙げられる。

#### (4)失敗したこととその要因

当初予定していた事業件数への支援が出来なかった。その一因として、当サポート事業の認知度はある程度見込まれる半面、該当年度にどの館からどの程度の予算規模で何館申請するかといった見通しが立てられないことや、申請事業予算規模の見通しが立てにくい点が挙げられる。

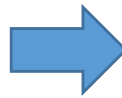
(5)事業内容詳細

別添報告書参照。

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

2.「情報交換会」の開催(3か所)  
積極的な活動が期待できる博物館を中心とした地域や分野毎の複数の博物館による情報交換会を開催し、今後における連携活動等の活発化を推進



(2)事業内容の実施(完了)状況

2.「海の学びコーディネーター」及び候補者との情報交換の実施  
現地及びオンラインにて「海の学びコーディネーター」及び候補者との情報交換を行い、今後における連携活動等の活発化や推進に向けた打合せを行った。

(3)成功したこととその要因

既存の「海の学びコーディネーター」やその候補者を対象に、今後の継続的・発展的な海の学び活動の実施に向けた打合せを行うことで、今後の地域内他セクター等を巻き込んだ事業展開や今後の継続性に向けた検討などを行うことが出来た。

(4)失敗したこととその要因

当初は積極的な活動が期待できる博物館を中心とした地域や分野毎の複数の博物館による情報交換会を現地対面式にて実施予定であったが、現地対面式にて実施することができなかった。その要因として、開催時期がコロナ禍のため、現地複数名での実施を自粛したことが挙げられる。

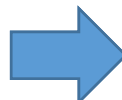
(5)事業内容詳細

別添報告書参照。

■事業内容3

(1)契約時の事業内容

3.「海の学び拠点」及び「海の学びコーディネーター」の発掘・選定  
海洋教育の推進や継続的な活動を行う博物館や人材を候補として発掘し、更なる発展的な海洋教育活動を目指す博物館や人材を「海の学び拠点」及び「海の学びコーディネーター」と位置付け選定



(2)事業内容の実施(完了)状況

3.「海の学び拠点」及び「海の学びコーディネーター」の発掘・選定  
海洋教育の推進や継続的な活動を行う博物館や人材を候補として新たに5名発掘し、更なる発展的な海洋教育活動を目指す博物館や人材を「海の学び拠点」及び「海の学びコーディネーター」と位置付け新たに12名選定のうちえ連携協定を締結した。

(3)成功したこととその要因

新たに12名の「海の学びコーディネーター」を選定すると共にその所属団体との連携協定を締結し、今後の継続的・発展的な海洋教育推進に向けた推進体制を拡充することが出来た。その要因として、過去支援館のうち特に当サポート事業や海の学びへの理解のある「海の学びコーディネーター」候補者との情報交換を密に行い、当人だけでなくその所属団体に対しても当サポート事業への理解と協力を得られたことが挙げられる。

(4)失敗したこととその要因

正式な連携協定締結者数よりも候補者選定数が少なくなり、今後の母数拡大に影響が出る恐れがある。その要因として、候補者の選定については過去に当サポート事業の活用や当サポート事業・海の学びへの理解などの条件を設定しており、比較的高い条件を設定しているため。また、恒常的に海を扱える博物館の少なさも大きな要因と思われる。

(5)事業内容詳細

別添報告書参照。

## ■事業内容4

### (1)契約時の事業内容

4.「ブロック準備会議」の開催(3か所)  
「海の学び拠点」及び「海の学びコーディネーター」を中核として各地域で新たに開催し、社会教育分野における海洋教育の組織的な推進体制の構築に向けた準備活動を行う。

#### 5.専用HPの構築と運用

- (1)アーカイブ化と公開
- (2)公募等関連情報の告知



### (2)事業内容の実施(完了)状況

4.第1回「海の学びコーディネーター会議」の開催(1回)  
「海の学び拠点」、「海の学びコーディネーター」、及びその候補者を集めた会議体を新たに開催し、社会教育分野における海洋教育の組織的な推進体制の構築に向けた議論やワークショップを実施した。

#### 5.専用HPの構築と運用

- (1)アーカイブ化と公開
- (2)公募等関連情報の告知

### (3)成功したこととその要因

当初は各地域別に「海の学びコーディネーター」を中心に開催予定であったが、急遽事業内容を変更のうえ当初予定以上の規模で全国のコーディネーターが一堂に会する会議体「海の学びコーディネーター会議」を開催することができた。その要因としては、各コーディネーターとの情報交換を行うなかで、多数のコーディネーターからの意見として、地域のまとまり作りよりも優先して全国のコーディネーターが一堂に会する場が必要との意見の吸い上げを行うことができたため。

### (4)失敗したこととその要因

当初予定していた各地域毎のまとまり作りを中心とした議論を深めることが出来なかった。その要因として、当初予定していた各地域毎のまとまり作りの事業については当サポート事業事務局のみにて計画したものであったが、各コーディネーターとの情報交換を行う中で、地域毎のまとまり作りよりも先ずは全国コーディネーター同士の繋がり作りの方が重要とのニーズがあったことから、事前にコーディネーターからの意見を集約したうえで事業全体の実施計画を立案すべきであったことが挙げられる。

### (5)事業内容詳細

別添報告書参照。

2.契約時事業目標の達成状況:

(1)助成契約書記載の目標

<p>◆定性的目標</p> <p>1.全国の博物館への支援サポートを継続し、社会教育分野から海洋に関する国民の理解増進を図るとともに、今後の地域社会において海をテーマにした生涯学習の新たな実施、継続、定着を目指す博物館のモデル的な活動を推進する。</p> <p>2.海洋教育の推進に理解や関心を持つ博物館等を対象とした「情報交換会」の開催等を通じて、発展的な事業の実施が見込まれる博物館や人材を「海の学び拠点」及び「海の学びコーディネーター」候補として発掘を拡充し、戦略的に活動を支援する。</p> <p>3.「海の学び拠点」及び「海の学びコーディネーター」の選定を拡充し、海洋教育の更なる深まりと広がりへの促進を目指した体制構築の第一歩とする。</p> <p>4.「海の学び拠点」及び「海の学びコーディネーター」を中核とした「ブロック準備会議」を新たに開催し、社会教育分野における海洋教育の組織的な推進体制の構築に向けた準備活動を行う。</p> <p>5.広報強化を継続することで、船の科学館の取り組みや事業趣旨への理解促進を目指す。</p> <p>◆定量的目標</p> <p>1.社会教育分野における海の学びの広がりに向けて新規14館での支援サポートを実施</p> <p>2.「海の学び特別サポート(オンライン学習プログラムの開発)」を通じた3件の実施</p> <p>3.各種サポートプログラムへの支援を通じて参加者数合計100万人を目指す</p> <p>4.「情報交換会」を3地域で実施</p> <p>5.海洋教育を実践し継続的に活動を行う博物館や人材の候補を新たに発掘(5館又は人)</p> <p>6.「海の学び拠点」及び「海の学びコーディネーター」を選定(12館又は人)</p> <p>7.各地域での「ブロック準備会議」を3地域で開催</p>
--

(2)目標の達成状況[700文字以内]

入力文字数	696	文字数チェック	OK
<p>◆定性的目標</p> <p>1:全国博物館への支援サポートを継続し、社会教育分野から海洋に関する国民の理解増進と、今後の地域社会において海をテーマにした生涯学習の新たな実施、継続、定着を目指す博物館のモデル的な活動を推進出来た。</p> <p>2:海洋教育推進に理解や関心を持つ博物館等を対象とした「情報交換会」の開催等を通じて、発展的な事業の実施が見込まれる博物館や人材を「海の学び拠点(拠点)」及び「海の学びコーディネーター(CN)」候補として発掘を拡充し、戦略的に活動を支援できた。</p> <p>3:拠点及びCNの選定を拡充し、海洋教育の更なる深まりと広がりへの促進を目指した体制構築の第一歩となった。</p> <p>4:当初予定していた「ブロック準備会議」に代わり、全国の拠点、CN及びその候補者を集めた「海の学びコーディネーター会議(CN会議)」を新たに開催し、当初想定した以上の規模で社会教育分野における海洋教育の組織的な推進体制の構築に向けた場とした。</p> <p>5:広報強化を継続することで、船の科学館の取り組みや事業趣旨への理解促進を図った。</p> <p>◆定量的目標</p> <p>1:社会教育分野における海の学びの広がりに向けて新規7館での支援サポートを実施</p> <p>2:「海の学び特別サポート(オンライン学習プログラムの開発)」を通じて3件を支援</p> <p>3:各種サポートプログラムへの支援を通じた参加者数合計1,981,513人</p> <p>4:各館との「情報交換」を29回実施</p> <p>5:海洋教育を実践し継続的に活動を行うCN候補を新たに5人選定</p> <p>6:CNを新たに12人選定のうえ連携協定を締結</p> <p>7:各地域での「ブロック準備会議」に代わり、全国CNを一同に会した「CN会議」を新たに1回実施</p>			

3.事業実施によって得られた成果

<p>本事業では大きなミッションとして『海洋国家日本における「海の学び」のスタンダード化』を掲げ、事業目標として「①全国の社会教育施設における海の学びの実践推進」、「②各地域で博物館が中心となり、地域を巻き込んだ海の学び活動の創出・継続・定着化」、「③本事業と連携・連動した活動ができるパートナー「海の学びコーディネーター」の発掘・育成」、「④多様なセクターとの連携による社会教育分野からの総合的な海洋教育推進体制の構築」を定めている。その目標達成に向けて中核的なアプローチとなるのが海の学びコーディネーターの発掘・育成を通じた社会教育分野における海洋教育の協働推進体制構築であり、今回新たに12名のコーディネーターとの連携協定を締結し、情報交換を通じたニーズの吸い上げを行った結果急遽開催することとなった「海の学びコーディネーター会議」において、今後の海洋教育推進に向けた議論を交わすことができたことは、上記推進体制構築の第一歩となると共に大きな成果であった。</p>
---



#### 4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

今後の社会教育分野からの海洋教育推進体制構築に向けたパートナー作りとして「海の学びコーディネーター(CN)」の選定を行い、地域を巻き込んだ事業や継続化を目指したモデル事業作り、協働推進体制作りなどを推進しているが、当初当サポート事業事務局にて立案していた各地域毎に行う「ブロック準備会議」よりも、全国CNを集めた「海の学びコーディネーター会議」の方が現状の各CNのニーズに即していることが分かるなど、当サポート事業の推進パートナーである各CNとの事業計画立案前の事前の情報交換を基にした事業計画作りの必要性を強く認識した。  
今後は当サポート事業事務局単独での事業計画立案を行う前に、事前に本事業の連携パートナーである各CNとの情報交換を基にしながら事業計画の立案を行うこととしたい。

#### 5.事業成果物

##### (1)助成契約書記載の成果物名称

<各サポートプログラムの支援対象館が制作するもの>  
1. 各館が制作する展示資料等  
2. 各館が制作するポスター等印刷物  
3. 各館から提出される実施報告書  
<「海の学びミュージアムサポート事業」事務局が制作するもの>  
4. 事業案内リーフレット等印刷物  
5. 事業専用ホームページ



##### (2)事業完了時の成果物名称

<各サポートプログラムの支援対象館が制作するもの>  
1. 各館が制作する展示資料等  
2. 各館が制作するポスター等印刷物  
3. 各館から提出される実施報告書  
<「海の学びミュージアムサポート事業」事務局が制作するもの>  
4. 事業案内リーフレット(7,800部)  
5. 発送用封筒(3,000部)  
6. 事業専用ホームページ

##### (3)未作成となった要因

未作成物無し

##### (4)成果物を登録したウェブサイトのURL